

特定非営利活動法人 冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク

2013(平成25)年度 事業報告書

(2013年6月1日～2014年5月31日)

目次

◎ 2013年度事業概要	・・・・・・・・・・	p.2
1. 子どもの育ちを支える地域活動を行なう団体や個人とのネットワークをつくり、 それを広げる事業	・・・・・・・・・・	p.3
2. 冒険あそび場の活動等に関する情報の収集・ならびに提供に係る事業	・・・・・・・・	p.3
3. 地域社会の子育て、遊びに係る調査・研究事業	・・・・・・・・	p.4
4. 冒険あそび場づくりへの相談・支援に係る事業	・・・・・・・・	p.4
5. 冒険あそび場の普及・啓発、及び運営に係る事業	・・・・・・・・	p.4
6. プレーリーダーの養成に係る事業	・・・・・・・・	p.5
7. 子どもの遊び・成育に関わる施策提言に係る事業	・・・・・・・・	p.6
8. 行政との協働事業を含む先駆的、実験的なまちづくりや地域づくりの推進に係る事業	・・・・・・・・	p.7
9. 組織・運営について	・・・・・・・・	p.10

2013年度事業概要

冒険遊び場の生みの親であり、NPO法人冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワークが2005年に発足して以来、代表理事を務めてきた大村虔一氏が1月に天に召されて、早くも半年が過ぎた。今まで、大村氏には様々な場面でその指導力を発揮していただいていた。東日本大震災直後の海岸公園冒険広場の休園にともない、本来、雇用の継続が難しかったプレーリーダーの経済的な支えとなることも進言いただき、被災した地域の子どもたちの遊びを通じた支援活動への新たな一歩を踏み出す勇気を引き出していただいた。また、震災前に開始した地産地消ショップは、東日本大震災後、その移動型の性格を発揮し、各地で必要とされる存在に大きく成長をした。急遽、代表理事を務めることになったが、副代表となった二人の理事、現場担当の理事に支えられ、改めて、現場を司る職員の叡智によって毎日の活動が展開されてきていることを深く感謝したい。

2013年度には、仙台市近郊を中心とした沿岸地域での遊び場づくりが基軸となっている。昨年度末に学校からの要請によって始まった若林小学校校庭、中野小学校・中野栄小学校校庭における移動式のプレーパーク活動のほか、従来から継続してきた仮設住宅団地内での活動、近隣の公園を活用した移動式のプレーパーク、さらには古くから地域の人たちに親しまれ、地域の防災上の拠点としても位置づけられている上荒井公会堂での乳幼児の親子の居場所づくりも活動が充実してきている。こうした活動は、地域で暮らす乳幼児の親子の出会いの場であるとともに、地域の人たちとも繋がっていく共通の場としての体験活動と見ることでもある。

7月末には岩沼市において新たに活動が始まり、後半には一般社団法人日本公園緑地協会に協力する形で復興庁の「新しい東北」先導モデル事業もスタートした。これらの取組みは、仮設住宅から復興住宅に移行していく時期を迎え、新たなコミュニティづくりの多代的な交流の場としての可能性を探る試みでもあり、高く評価されている。

こうして広がっていく事業の中で、地産地消ショップの事業が、本年度で終了し、新たに独立して展開されることになった。この事業が本法人で果たしてきた役割は震災後、被災者の孤立防止に向けた取組みとしてさらに大きなものに成長してきた。協力してくれる周りの人たちの力を借りながら、今までの職員だったメンバーの努力で新しい団体を立ち上げ、運営に関わる主体性が備わることで、パートナーシップでの本団体との関わりにその姿を進化させることができたのではないかと考えている。

被災地の状況は、ゆっくりかもしれないが、日々、変化してきている。11月には海岸公園復興基本計画が示され、H30(2018)年に現状復旧をとげ、その後、魅力ある公園に進化させていく道筋が示されている。本法人としても全国からの様々な人たちの支援を受けて進められてきたが、改めて組織運営の基盤づくりとして認定NPO化の申請にこぎつけることができた。今、取組みが始まった遊び場を通じたコミュニティづくりにじっくりと向かい合いながら、ボランティアや地域の輪を広げていくことで、今まで点と点で行ってきた活動が、ネットワークとしての線と線とを結んだ活動になり、やがて子どもたちの遊び環境、そしてコミュニティの再興という面的な活動の広がりにも寄与できれば幸いである。

代表理事 佐藤 慎也

2013年度事業計画 6つの「重点的取り組み」 事業報告での記載箇所

「重点的取り組み」項目	取り組んだ事業（事業報告＝定款区分）
①被害の大きかった地域を中心に取り組む遊び場づくり	事業1. 事業4. 事業5. 事業8-1. (2)(3)(4)
②海岸公園を中心に、沿岸部の復興に向けた貢献	事業8-1. (1)(5)
③地産地消ショップ最終年度の運営	事業8-2
④冒険広場の普及・啓発の機能も併せ持った拠点の確保	事業3. 事業7. 事業8-1. (1)
⑤ボランティアの輪をひろげる・地域への浸透	事業1. 事業2. 事業6.
⑥認定NPO申請など、組織運営基盤づくり	(「9. 組織運営について」に記載)

1. 子どもの育ちを支える地域活動を行なう団体や個人とのネットワークをつくり、それを広げる事業

(1) 事業実施にあたっての、連携組織の構築：社会的包容力構築・「絆」再生事業

本事業実施にあたっては「絆」再生事業運営委員会」を組織し、意見交換を行うと共に、連携して事業を実施した。前年度より継続の仙台での委員会に加え、2013年度は、岩沼市においても連携組織が生まれた。構成は、それぞれ以下の通り。

①仙台市

- ・若林区社会福祉協議会
- ・卸町五丁目公園仮設住宅町内会
- ・ニッペリア仮設住宅自治会
- ・六郷・七郷コミネット
- ・仙台市市民協働推進課
- ・仙台市農業振興課（～3月）
- ・仙台市若林区まちづくり推進課（5月～）

②岩沼市

- ・宮城県仙台保健福祉事務所
- ・岩沼市被災者生活支援室
- ・岩沼市子ども福祉課
- ・里の杜サポートセンター
- ・岩沼市社会福祉協議会
- ・同 復興支援センタースマイル
- ・いわぬまあそび場の会（5月～）

(2) その他、他団体とのネットワーク

- *六郷・七郷コミネット 参加（NPO、民間企業、大学、行政等の連携した復興組織）
- *仙台YWCA 震災復興支援室「こころの杜」運営メンバー（～3月）
- *若林復興の輪ミーティング 参加（主催：若林区社会福祉協議会）
- *災害子ども支援ネットワークみやぎ 賛同者
- *絆々まちなかプロジェクト主催事業への参加・協力・名義後援
- *杜の子まつり実行委員会 参加

2. 冒険あそび場の活動等に関する情報の収集・ならびに提供に係る事業

(1) 宮城県内外の冒険あそび場活動についての情報収集

理事会を中心とした従来からの仙台市周辺の冒険遊び場活動についての情報交換に加え、遊び場活動の支援（事業5.）、8月に福岡で開催された「冒険遊び場全国研究集会」への参加、11月実施の冒険遊び場全国一斉開催への参加・呼びかけ（同）、東北地域の遊び場づくり団体の「小集まり」への参加、なども通じ、被災地域を中心にひろがりを見せる県内外の遊び場づくり活動の情報を収集した。

(2) ホームページ等での発信

団体ホームページを全面的にリニューアルした。県内各地にひろがりはじめた遊び場のマップ・情報ページも備えた。

(3) 「冒険あそび場だより」の発行

2013年7月、前年度の活動を取りまとめた「冒険あそび場だより」を作成、震災後大きく変わっている活動の全体像を取りまとめ、冒険あそび場のひろがりと様々な可能性について発信するために用いた。

(4) 取材・報道等への協力

事業8. 「海岸公園冒険広場の運営」「冒険広場周辺地域で開催する遊び場」および、「産直広場ぐるぐるの取り組み」を中心に、新聞・ラジオ等の報道に協力した。

〈新聞〉 ・12月21日 仙台リビング新聞社「リビング仙台」
・1月29日 河北新報「遊び場提供活動 根本復興相評価」 ほか

〈ラジオ〉 ・6月17日 ラジオ3「伊達の達人」8月3日「ラヂオはいらいん若林」 ほか

3. 地域社会の子育て、遊びに係る調査・研究事業

(1) 復興庁「新しい東北」先導モデル事業の一環としての遊び場づくり調査

8月に復興庁が公募した「新しい東北」先導モデル事業に対し、日本公園緑地協会が申請・選定された「健やかな子どもの成長を育む地域の遊び場づくり事業」に協力する形で、以下に取り組んだ。

- ・若林区内で取り組む遊び場づくり活動の検証
- ・地域住民が担い手となる新たな遊び場づくり活動のモニタリング
- ・災害復興期における遊び場づくりのモデル化

(2) 「せんたプロジェクト」での三世代遊び場調査

「遊びとまち研究会」（東京・世田谷区）との協働事業「せんた（仙台・太子堂）プロジェクト」の一環で、若林区六郷・七郷地区での遊びの様子を世代ごとにヒアリングした。成果は、「子どもの目線で復興まちづくりー仙台・六郷&七郷地区 三世代遊び場マップ」として編集・発行された。（公益信託世田谷まちづくりファンド「災害対策・復興まちづくり部門」助成事業）

4. 冒険あそび場づくりへの相談・支援に係る事業

遊び場づくり団体、その他NPO、行政、研修者等から寄せられる下記のような各種相談に対応、必要に応じ具体的な支援も行なった。

- ・遊び場づくりへの協力依頼 →事業5. 「宮城県を中心とした遊び場活動の支援」
- ・遊び場づくりへのアドバイス
- ・新設する公園の運営についての相談
- ・遊び場スタッフの現場研修受入れ
- ・講師派遣
- ・研究者・学生からのヒアリングへの対応

また2013年度は、石巻市で震災直後から子ども支援に取り組むNPO「にじいろクレヨン」が、日本NPOセンターの助成を得て行う「石巻プレーパークプロジェクト」（プレーパーク運営の基盤づくり事業）に対しても、「アドバイザー」として研修コーディネート・実習受入れ等の側面支援を行なった。

5. 冒険あそび場の普及・啓発、及び運営に係る事業

(1) 若林区を中心とした、プレーカーを活用しての遊び場の運営
 指定管理者として運営する海岸公園冒険広場は現在も休園中だが、若林区六郷・七郷地域を中心に、プレーカーを活用しての遊び場を運営している。(→事業8. 参照)

(2) 宮城県を中心とした遊び場活動の支援

県内各地で始まっている市民レベルの遊び場づくりの取り組みを支援するため、プレーリーダー等を派遣した。また、復興支援イベント内での遊び場実施の依頼にも協力している。なお、こうした支援においては、12月に東北事務所を設置するなど被災地支援事業の体制を強化した日本冒険遊び場づくり協会とも連携しながら取り組んでいる。

岩沼市からの依頼については、仮設住宅の子の遊び場づくりに協力して欲しいとの相談から数回の遊び場試行を経て、継続的な活動に展開した。

- ①北上プレーパーク有志の会「うらやまでプレーパーク」(石巻市北上地区) 5/22 2人派遣
- ②岩沼市・里の杜地区でのあそび場 7/31 8/20 9/4 3回のべ9人派遣
→(9/18～ 事業8. 絆再生事業の一環として実施)
- ③ふるじろプレーパークの会「ふるじろプレーパーク」 8/1・2 2日間のべ5人派遣
- ④子どものための石巻市民会議「石巻プレーパーク in 中瀬公園」(石巻市) 8/11 1回2人派遣
- ⑤せんだい杜の子ども劇場「杜の子まつり」(8/5 東松島市・12/3 南三陸町・2/9) 3回のべ5人派遣
- ⑥松島町海の盆実行委員会「海の盆 松島こども王国」8/15・16 2日間のべ3人派遣
- ⑦「子どものまちいしのまき」ストリートパーティー 10/6 1回2人派遣
- ⑧名取市生活再建支援課「NATORI こどもかいぎ」12/8 1回3人派遣
- ⑨東名茶房「あそぼっカーがくるよ!」「遊ぼうパン」(東松島市) 1/6 3/22 2回のべ4人派遣

(3) 第4回「冒険遊び場全国一斉開催」への参加

日本冒険遊び場づくり協会が呼びかけた「冒険遊び場全国一斉開催」に参加。本事業の目的は、全国の仲間が一斉に行動することで、外遊びの力と冒険遊び場の存在を広く知らしめ、また各地域の活動者が自分の地域にアピールできる状況をつくることにある。本年も、参加・賛同団体募集の際に宮城県内の多くの団体に参加・賛同の呼びかけを行なった。

(4) 杜々かんきょうプログラム実践

平成21年度に仙台市環境局・杜々かんきょう教育プログラムに提案をした幼児から対象とする環境プログラム「いろ色発見隊～季節のカメラマン」を、以下のように実践した。

実施団体	実施日	実施場所	対象
仙台中田保育所	10/22(火)	保育所内	4・5才児 28名
穀町保育園	10/23(水)	榴ヶ岡公園	4・5才児 29名
仙台市吉成保育所	10/25(金)	保育所内	3才児・5才児 45名
仙台市根岸保育所	10/31(木)	大年寺山	5才児・6才児 19名
仙台市太白保育所	11/ 1(金)	太白山山自然観察の森	3・4・5才児(2クラス) 42名
仙台市福田町保育所	10/16(水)	要害公園	4・5才児 26名
和敬保育園	11/19(火)	ホール	4才児 15名
和敬保育園	11/27(水)	ホール	5才児 20名

6. プレーリーダーの養成に係る事業

2013年度は、「ボランティアの輪をひろげる・地域への浸透」として、人材育成を重点事業に位置付け、スタッフ全体で力を入れて取り組んだ。

(1) ボランティアコーディネーター体制の強化

2013年3月に配置したボランティアコーディネーター（斉藤信三：プレーパークせたがやからの派遣プレーリーダー）を軸に、日本NPOセンター助成事業も活用しながら、スタッフ間でボランティアと協働する意識を確認、体制を整えた。学生を意識した「ボランティア体験日」の設定をはじめ、さまざまな場面で子どもの遊びを見守る大人の輪を広げる取り組みを行なった。

また、(3)も含め振り返りを重視することで学びを促すと共に、自分たちの大事にしている視点をいかにして伝えるか議論を深めている。

(2) 講座等の実施

主に、事業8.として実施する遊び場づくりの活動の中で、スタッフ・ボランティアを対象に下記講座を実施するほか、現場での実践も含め、遊びに関わる大人の育成に努めた。

スタッフ・ボランティア等を対象とした研修・講座

実施日	内容	講師	実施枠組等	対象
2013/6/10	「ボランティアとの協働」を考える	岡村こず恵 (大阪ボランティア協会)	日本NPOセンター「NPO育成強化プロジェクト」	スタッフ
2013/8/4	復興まちづくりと子どもの遊ぶ環境	大村 虔一 (当会代表理事：当時)	第9回通常総会関連企画	スタッフ ボランティア 一般
2013/9/29	遊び場での事故・ケガ対応と応急手当	斉藤信三・岩淵健史 (当会プレーリーダー)		スタッフ ボランティア
2013/11/18	遊びを通して子どもの心のケアと地域の再生	武山美佳さん (北上プレーパーク有志の会) 須永力さん (日本冒険遊び場づくり協会)	絆再生事業 男女共同参画推進せんだいフォーラム2013 参加企画	スタッフ ボランティア 一般
2013/12/2	ボランティアの受入れを振り返る	岡村こず恵さん (大阪ボランティア協会)	絆再生事業	スタッフ
2013/12/10	岩沼の子どもたちは今 冒険あそび場って？	石垣千佳子さん (岩沼市子ども福祉課) 根本暁生 (当会プレーリーダー)	絆再生事業 「子どものあそび場にかかわる大人のためのボランティア養成講座」	ボランティア スタッフ
2013/12/17	子ども時代を振り返る	菅博嗣さん (あいランドスケープ研究所)	岩沼市社会福祉協議会と共催	
2013/12/24	子どものあそび場づくりに住民が関わること	天野秀昭さん (日本冒険遊び場づくり協会)		
2014/1/14	遊び場での危険の管理	嶋村仁志さん (TOKYO PLAY)		
2014/1/21	事故発生時の対応	斉藤信三 (当会プレーリーダー)		
2014/1/28	普通救急救命講習	岩沼市消防署		
2014/2/4	「遊び」「遊び場」の持つ意義を考える	渡部達也さん (ゆめ・まち・ねっと)		スタッフ ボランティア
2014/2/3	生きづらさを抱える子どもたちに「地域の人」ができること	渡部達也さん (ゆめ・まち・ねっと)		
2014/3/23	「子ども」と「社会」を「遊び」でつなぐ～プレイソーシャルワーカーの挑戦～	荒田直輝さん (プレイソーシャルワーカー)	絆再生事業	スタッフ ボランティア 一般
2014/5/24	「遊び場での事故・ケガを考える」「応急手当」	斉藤信三・岩淵健史 (当会プレーリーダー)		スタッフ

(3) 長期インターン生の受入れ

今年度は初めて、住友商事「東日本再生ユースチャレンジ・プログラム」のインターンシップ奨励プログラムによる、9か月間にわたる長期インターン生2名を受入れた。

7. 子どもの遊び・成育に関わる施策提言に係る事業

事業8.として実施する遊び場づくりの活動を通し、被災地域の復興においての子どもの遊び場の重要性について様々な機会で発信していった。2013年度は、被災地で際立って表れる課題を解決し他地域にも展開していくことを目的にした復興庁「新しい東北」先導モデル事業にも取り組み（申請者は日本公園緑地協会）、子どもの育成や地域コミュニティづくりに子どもの遊び場が果たす役割を訴えた。1月には復興大臣の視察も受け、その意義について評価を受けている。

また、仙台市が進める海岸公園復興基本計画の検討に際し、杜の都の環境をつくる審議会等を通して意見表明を行なっている。

8. 行政との協働事業を含む先駆的、実験的なまちづくりや地域づくりの推進に係る事業

8-1. 遊び場の運営を中心とした取り組み

(1) 海岸公園冒険広場の運営【仙台市指定管理業務】

2013年度は指定管理者となって3期目の3年目であったが、東日本大震災により、昨年度に引き続き休園を余儀なくされた。海岸公園復興基本構想・同基本計画が策定されようやく再開時期が設定されたものの、2018年とまだ4年の時間を要する見込みである。敷地内外では、南北の隣接地の災害廃棄物搬入場が稼働（～3月）していたほか、今年度は、敷地内を横切ることになった二郷堀導水路の工事もあり、公園の様相は大きく変わった。そのため、指定管理業務は、昨年度に引き続き、週に1回の巡回と年1回の除草、一部の視察対応のみとなった。

そんな中ではあるが、再開後に公園が果たすであろう役割も見据えながら、隣接する松林の残存部も含め、震災の記憶の保存（展望台周囲の津波痕跡の保存、公園内に漂着した津波流失松の水路工事による滅失の回避、等）・記録のために尽力した。2014年3月には、市震災メモリアル等検討委員会の視察も受けている。また、震災発生後、被災状況や1年間の活動の記録をまとめ発行した「ぼうひろ便り」1～3号を再編集し、今後も資料として活用できるようにした。

一方、暫定的な津波避難場所に指定され、隣接する災害廃棄物処分場や防潮堤工事の従事者が避難してくることが予定されていることを踏まえ、総合防災訓練への参加をはじめ、プレーリーダーハウスの使用について現場事務所等と調整を行なって、万一の時に備えた。

なお、休園中、冒険広場の機能の一部を確保する目的で、「海岸公園冒険広場サテライト業務」が仙台市より委託されている（下記(2)の①）。

(2) 冒険広場周辺地域および岩沼市で開催する遊び場

拠点としていた海岸公園冒険広場が長期休園となるなか、引き続き、冒険広場からやや内陸部に入った六郷・七郷地域を中心に複数個所で遊び場づくり活動を展開した。

目的として、震災前から冒険広場が果たしていた役割を担うことに加え、東日本大震災によってさまざまな不安やストレスを抱える子どもたちに対して、日々の暮らしの中で子どもたちが自らを癒せるような環境をつくることで広い意味での「心のケア」の役割を担うことをめざした。

2013年度は、これまでの仙台市内に加え、岩沼市からも要請を受けて遊び場を開催するようになった。岩沼では、リヤカー対応のプレーキットを導入するなど、地域密着の開催形態も模索している。

<若林区：七郷地域の遊び場> ①～③

七郷地域で実施する3か所の遊び場は、「荒井公共土地地区画整理地区」内にある。同地区周辺は、仮設住宅や若林区荒浜地区からの民間賃貸借上住宅（みなし仮設住宅）が多く立地する。また、沿岸部災害危険区域の集団移転先として同地区の一部区画がとして他に先駆け分譲されているほか、周辺で集団移転地の造成が複数進行しており、荒浜小学校児童をはじめ震災後に移り住んだ子と、以前からの住む子のつな

がりが生まれる場としての役割も、今後期待される。

- ① 七郷あそび場（荒井4号公園） 毎週水曜開催 計53回 【仙台市海岸公園冒険広場サテライト業務】
休園中の海岸公園冒険広場が目指していた自由な遊び場づくりを、他の公園で実現する「海岸公園冒険広場サテライト業務」として実施している。活動場所の荒井4号公園は、七郷小学校と七郷児童館・市民センターに隣接し、幅広い子どもたちが集まりやすい立地条件になっており、事業目的である多様な遊び場の確保・冒険あそび場の理念の普及に資する場となっている。児童館・市民センターの事業にも協働で取り組むなど、連携を深めている。
- ② 荒井2号公園あそび場（伊在2丁目公園：旧荒井2号公園） 毎週水曜 計49回
【～3月：子どもはぐくみファンド／4月～：社会的包容力構築「絆」再生事業】
25戸の仮設住宅が立地すると共に、地区最大200戸のプレハブ仮設住宅に近接する。「上荒井公会堂あそびば」との連携も重視しており、乳幼児の親子も比較的多く集まる。本年度は特に、乳幼児の親子を対象とした「ママ&パパかふおえ」を利用者参加で実施するなど、大人の輪づくりに力を注いだ。
- ③ 上荒井公会堂あそびば「ちびひろ」（上荒井公会堂） 毎週木曜 計46回
【～3月：子どもはぐくみファンド／4月～：社会的包容力構築「絆」再生事業】
町内会会館を利用しての、乳幼児親子を対象にした屋内中心の遊び場。町内会と連携することで、新住民と地元住民がつながる機会を生むことを意識しながら活動を展開した。

<若林区：六郷地域の遊び場> ④・⑤

津波被害を受けた若林区東六郷地区からの仮設住宅・みなし仮設住宅居住者の多くは、2か所の遊び場を実施する六郷地区に集中している。そんな中、東六郷小学校は六郷小学校との統合が検討されており、子どもたちからは不安がる声も聞かれることが多かったが、遊び場ではそうした声を受け止めると共に、両校の児童が本音で交わることのできる場としての重要性を意識しながら、子どもが自分を表現できるよう活動に取り組んだ。

- ④ 六郷あそび場（六郷小学校校庭） 毎週日曜 計47回
【～3月：社会的包容力構築「絆」再生事業／4月～：子どもサポート基金事業】
六郷小学校は、自校学区域内にも浸水区域を抱えると共に、学区域すべてが津波被害を受けた東六郷小学校が移転・間借りしている六郷中学校にも隣接している。2013年度は被災した体育館の建替えが進み、校庭等との利用が制限される中、貴重な遊び場になったと言える。また当初は少なかった東六郷小児童も見られ、交流の場になっている。
- ⑤ ニッペリアあそび場（若林日辺グラウンド仮設住宅） 毎週木曜 計50回 【社会的包容力構築「絆」再生事業】
200戸の仮設住宅の敷地内、集会所の機能を持つクラブハウスの周囲で活動を行っている。仮設住宅に住んでいる子ども、みなし仮設に住んでいる子ども、津波被災を免れた子ども、それぞれの被災状況や通学している学校は違うが、遊び場に集い関係を築いている。2013年度は、自宅を再建し仮設住宅を出ていく人も多かった。一方、遊び場に足を止めゆっくりしていく大人の姿は多く見られるようになった。

<その他仙台市内で継続的に取り組む遊び場> ⑥～⑧

若林区六郷・七郷地区で始めた上記の巡回型遊び場（①～⑤）の活動を知った人たちから声がかかるようになり、2012年度中、仙台市内3か所で新たに継続的な遊び場の取組みを始めた。

- ⑥ 卸町五丁目あそび場（若林区：卸町五丁目公園仮設住宅） 毎週土曜計49回 【社会的包容力構築「絆」再生事業】
仙台市だけでなく市外や福島県など様々な場所から集まって避難生活を送る90世帯ほどの仮設住宅の中にある小さな公園での活動。人数は少ないが、遊び場を通して子ども達はいきいきとし、仲間になって遊ぶようになっている。2013年度は、冬から七輪を囲むようになったことの効果もあり、保護者も含め仮設住宅に住む大人も長い時間を過ごすようになってきている。
- ⑦ 中野小学校あそび場（宮城野区：中野小学校・中野栄小学校校庭） 計6回 【社会的包容力構築「絆」再生事業】
学区全域が津波被害を受け、中野栄小学校に間借りし開校している中野小学校の校医からの相談により

始まった。現在同校児童は授業終了後すぐにスクールバスに乗り込まなくてはならない状況であり、遊び場開催日は放課後に子ども同士で遊べる貴重な時間となっている。回数は少ないが、子どもからも「次はいつやるの？」との声が毎回聞かれる。中野栄小学校の児童も参加している。

⑧若林小学校あそび場（若林区：若林小学校校庭）計 12 回 【社会的包容力構築「絆」再生事業】

若林小学校・若林区中央市民センターからの、放課後子どもたちが思いっきり遊べる場がないとの相談により 2013 年 3 月に始まった。毎月 1 回の開催を継続することで、子どもたちの中でも定着してきた様子が見られる。少しずつ地域の方の参加も見られるようになってきた。隣接地ではこの 4 月に復興公営住宅が完成した。コミュニティづくりへの寄与も期待される。

<岩沼市で取り組む遊び場> ⑨

⑨里の杜あそび場（岩沼市：里の杜中央公園・総合福祉センター）7 月～ 【社会的包容力構築「絆」再生事業】

仮設住宅に住む子どもたちが思いっきり遊べる場所がないという声を受け、岩沼市内のプレハブ仮設が全て集まる里の杜地区の公園で始まった遊び場。その後、乳幼児向けの屋内の遊び場「あい i あそび場」も加えると共に、週末にも活動を始めるなど 1 年で大きな進展が見られ、定着してきている。仮設住宅に住む子たちと共に地元の子たちも遊びに来る場となっている。岩沼市ははじめ関係各機関が連携すると共に、市民・学生のボランティアも多数関わり、子どもが多様な大人とかがわる機会ともなっている。なお、被災地で最も早いと言われる集団移転事業では 2014 年 4 月で宅地の引き渡しが完了し、住民の転居も進んできており、年度内には状況が大きく変わることも見込まれている。

(3) 他団体の実施する企画への開催支援等

前年度に引き続き、遊び場活動実施地域の町内会や仮設住宅自治会の夏祭りへの協力、などを行なった。

- ① 荒井町内会「上荒井夏まつり」 8/2
- ② 卸町五丁目公園仮設住宅 夏まつり 8/10
- ③ 若林日辺グラウンド仮設住宅「ニッペリア夏まつり」 8/25

(4) 遊び場づくりと連携した、大人も集まれる「お茶っこのみ」等の支援活動の実施

本年度は特に、遊び場と並行して仮設住宅集会所でサロンを実施するなど、大人の集まりやすい工夫も行った。近隣町内会との連携もとりながら、新住民と地元住民がつながる機会を生むことを意識しながら活動を展開した。

- ④ 若林日辺グラウンド仮設住宅「えっちゃんおかんの縁側倶楽部」月 1 回 計 11 回実施
- ⑤ 荒井 2 号公園仮設住宅でのお茶っこのみ企画 計 4 回実施

(5) 沿岸部の環境調査

未だ復旧の見通しが立っていない仙台市沿岸部において、生き物の様子から小さな「再生」を感じるきっかけとすることをねらい、季節に 1 回ずつ、海岸公園冒険広場を中心に沿岸部の生き物の再生状況を調査した。2013 年度は、震災前と 2011・2012 年度の結果をとりまとめた報告書も作成した。

(6) 講座等の実施

事業 6. で挙げたプレーリーダー養成講座のほか、乳幼児の保護者を対象にした講座を実施した。

◎「こどもも大人もハッピーになれる子育て」12/9 七郷児童館（共催：七郷児童館）

講師：金香百合氏（ホリスティック教育実践研究所所長）

プレーリーダーと託児ボランティアによる完全託児をし、ワークショップ形式で自分の心と向き合う講座となった。（共催：七郷児童館）

8-2.産直広場ぐるぐるの取り組み

2012年度から厚労省の社会的包摂・「絆」再生事業を活用したこの活動も最終年を迎え、2014年3月31日をもって、当法人の事業としての満了を迎えた。地域資源（農産物）をいかした見守り事業と、主に若林区で生産される野菜を届ける移動販売に加え、サロン活動も行なってきた。また、仮設住宅で暮らす人たちでつくる手作り手芸の会などに、活動場所としての場の提供も行い、気兼ねなく集える場所として活用されている。

4月からは、ぐるぐるスタッフを中心に一般社団法人を立ち上げ名称や活動を継承している。事業展開の成果を地域に引き継ぐという所期の目的は達成されたと考えられる。

(1) プレハブ仮設・みなし仮設入居者の見守り

プレハブ仮設住宅や、みなし仮設が多い地域で産直市場を開催。

買い物をきっかけに、おしゃべりサロンやイベントへの参加を促し、孤立防止の一助とする。

- *毎週水・土曜日 「若林マルシェ」「おしゃべりサロン」
- *毎週水・木曜日 「サロンゆうゆう（高齢者通所施設）産直市」
- *毎週木曜日 「フォンテーヌ（知的障がい者の授産施設）産直市」
- *毎週土曜日 「卸町土曜市」（卸町五丁目公園仮設住宅）

(2) 他団体主催の催事に参加し、広範囲な被災者支援をする。

- *毎月8日「お薬師さんの手づくり市」
- *毎月28日「新寺こみち市」（テーマによって出店しない月もあった）
- *毎週木曜日「Yわいマルシェ」（仙台YWCA主催）
- *蔵deひなまつり(H26/2/27~3/3)（粋々まちなかプロジェクト主催）
- *若林区主催事業への参加「若林区民ふるさとまつり(H25/10/20)」「春らんまん(H25/4/21)」

「事業8.」各取組みの財源別整理

		海岸公園冒険広場 指定管理業務	海岸公園冒険広場 サテライト業務	こども☆ はぐくみファンド	社会的包摂・ 「絆」再生事業	子どもサポート 基金
遊 び 場	◎ 冒険広場	◎				
	① 七郷		◎			
	② 荒井2号			○(～3月)	○(4月～)	
	③ 上荒井公会堂			○(～3月)	○(4月～)	
	④ 六郷				○(～3月)	○(4月～)
	⑤ ニッペリア				◎	
	⑥ 卸町五				◎	
	⑦ 中野小				◎	
	⑧ 若林小				◎	
	⑨ 里の杜(岩沼)				◎	
お茶っこ飲み等支援活動			○	○		
産直広場ぐるぐる				◎		

9. 組織運営について

(1) 代表理事の交代について

前代表理事大村虔一の逝去に伴い、2014年1月13日に開催された理事会にて新代表理事として佐藤慎也理事を選任した。また併せて、副代表理事として阿部俊昭・高橋悦子両理事も選任、新たな理事会体制となった。

(2) 認定NPOの申請について

公益性を認められて税制上の優遇を受けられるようになる認定NPOについて、2014年5月28日に所轄庁である仙台市に申請を行なった。